資料４

答申に向けた提言（案）

「切迫する首都直下地震に備え、効果的な活動の実現に向けた災害活動力の継続的な強化方策について」

大田区消防団運営委員会

目　次

検討事項１について …… 1

検討事項１及び検討の方向性について …… 1

アンケート結果について【資料２から抜粋】 …… 2～9

検証結果について【資料３から抜粋】 …… 10，11

答申に向けて[提言（案）及び対応方針（案）] …… 12

検討の方向性①、②、⑤について …… 12，13

検討の方向性③、⑥について …… 14

検討の方向性④について …… 15

検討事項２について …… １６

検討事項２及び検討の方向性について …… 16

アンケート結果について【資料２から抜粋】 …… 16～21

答申に向けて[提言（案）及び対応方針（案）] …… 22

検討の方向性①について …… 22

検討の方向性②について …… 23

検討事項１

検討事項１及び検討の方向性について

課題

訓練の実効性を高め、災害対応力の強化を図ることが重要である。

検討事項１

現消防団活動の負担の軽減を考慮し、首都直下地震を想定した実戦的かつ継続的な訓練を実施する。

検討の方向性

①　現在の消防団活動の負担を軽減し、より効率的な活動とすることで、実戦的な訓練を充実させる。
・消防団活動における負担についてのアンケートを実施し、効率的な活動を検討する。

②　現行の訓練内容や方法の再評価による効果的かつ効率的な訓練推進方策の提案
・実災害の教訓を踏まえた訓練内容の見直し、ブラッシュアップ
・操法大会（訓練含む。）における「競技性」から「実効性」重視への見直し提案

③　実災害に即した署隊との多様な連携訓練の推進
・消防署との連携訓練のパッケージ化や中長期的な視点に立った訓練計画の策定

④　震災等における長期間の活動継続を視野に入れた訓練の検討と課題の抽出
・後方支援資機材等も含めた訓練の実施

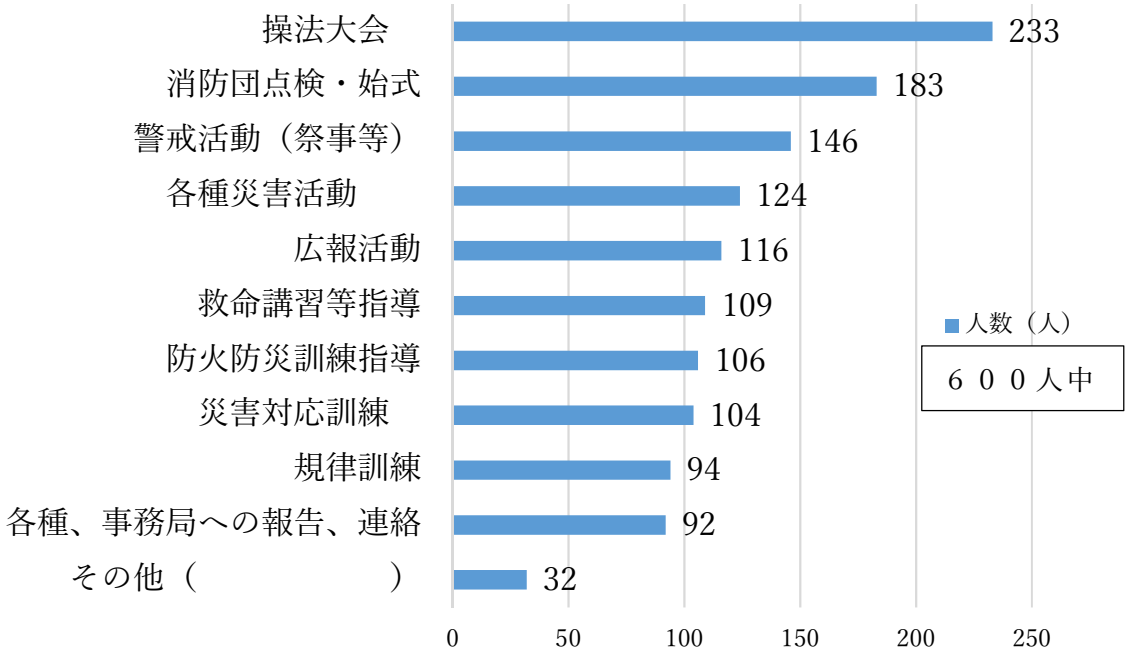
⑤　従来の枠組みにとらわれない柔軟な訓練、行事による負担軽減方策の検討
・新たな消防団点検の試行等を踏まえた「活動能力の高い消防団」の実現

⑥　各消防団の地域特性に応じた訓練内容、方策の検討
・住宅密集地や商業地、河川沿いなど地域ごとのリスク特性を踏まえた災害対応訓練の企画と実施方策
・消防団員の構成（高齢化、女性、若年層など）に応じた柔軟な訓練スケジュールや内容の設定

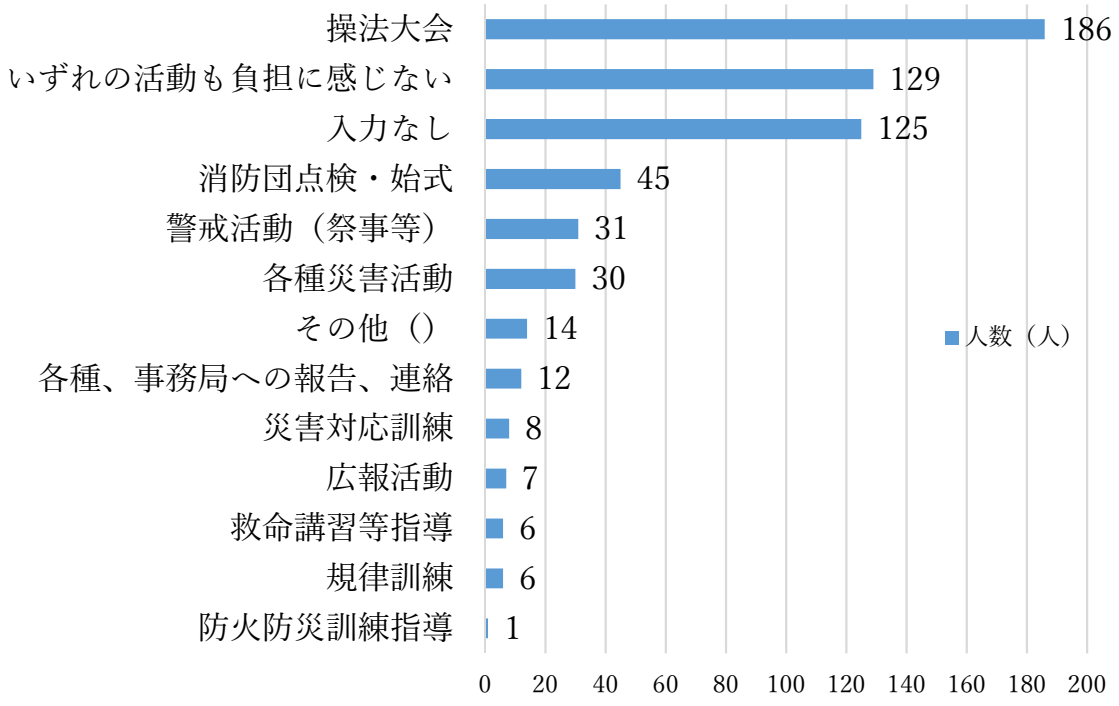
検討事項１

アンケート結果について【資料２から抜粋】

Ｑ１－１　について、消防団の各活動において負担を「やや感じる、非常に感じる」人数をとりまとめた。



Ｑ１－２　最も負担に感じる活動



検討事項１

アンケート結果について【資料２から抜粋】

Ｑ１－３　負担の具体的内容

その他

・行事における来賓あいさつが長い。議員について途中退席や秘書の代理出席などの方は紹介しなくてよい。

各種、事務局への報告、連絡

・出場通知書等、紙ベースの提出が主流であり負担である。IT 化を行いペーパーレス化してほしい。

各種災害活動

・年齢を重ねるごとに体力的な負担があり、他の団員と同じように動けないこと。
・就寝時の火災対応
・仕事のため、災害があっても出場できないこと。
・仕事が優先となるため、出動できる人が限られてしまい負担となっている。
・仕事等で災害があっても出場できないことが申し訳なく負担に感じる。
・企業団員で活動着を会社においているため、仕事中に抜けて活動できないこと。

規律訓練

・集団行動が苦手

救命講習等指導

・救急勉強会について、団員同士で教えあうことに疑問を感じる。また、開始時間が遅い。

警戒活動（祭事等）

・祭事、神輿等は時間も長く、炎天下での長時間の警戒は時間的にも体力的にも負担
・酔っ払いへの対応
・交通整理を含む警戒活動は危険が伴うので負担

災害対応訓練

・仕事であまり参加できないこと。
・反復した訓練がないこと。
・体力的な負担

検討事項１

アンケート結果について【資料２から抜粋】

消防団点検・始式

・大半の団員が行進のみで終了し、指定された数名のみで訓練成果を披露する活動に大きな意義を感じない。また、来賓の挨拶が長く、長時間立ったままの状態に強い負担を感じる。

・消防団始式については、長時間にわたり、表彰や来賓あいさつがあり、負担に感じている。来賓者からも、出初式のようなセレモニーだと思ったのに、特に見どころもないとの声が聞こえてくる。

・団始式において、朝早くから集合し、練習が間延びして時間的、体力的にも負担に感じる。来賓あいさつについても代表の方を絞っても良いのではないかと思う。表彰については代表受賞を更にまとめて行ったら良いのではないかと思う。団点検も同様

・消防団始式を誰のために、何のために行っているのか、目的が不明

・リハーサルを含め時間が長い

操法大会

・分団員不足による選手の固定及びそれに伴う負担

・競技性における指導のあり方、訓練日数の増加、訓練回数及び日数が多い、時間が長い

・実戦的な訓練ではない。

・分団員不足のため選手をしたくなくても我慢して実施している団員がいる。

・市民消火隊の訓練があっても操法訓練を優先にしている。

・訓練場所が道路であるため安全管理が負担

・選手になってしまうと、私用及び仕事等により訓練を休みたくても、信頼関係のため休めなくなり、私用及び仕事等を調整することとなってしまう。

・体力的な負担

・大会として行われているため、タイムや規律で点数を付けられる事が負担となっている。

・実戦的ではない、実災害に効果があるか疑問

・災害対応訓練を全く行わず、全て操法の訓練に当てること。

・大会の閉会式で来客が帰るまで立ちっぱなしとなる。

・休日及び夜間訓練が負担

・毎年実施されることが負担

・競技ではなく発表会としてほしい。

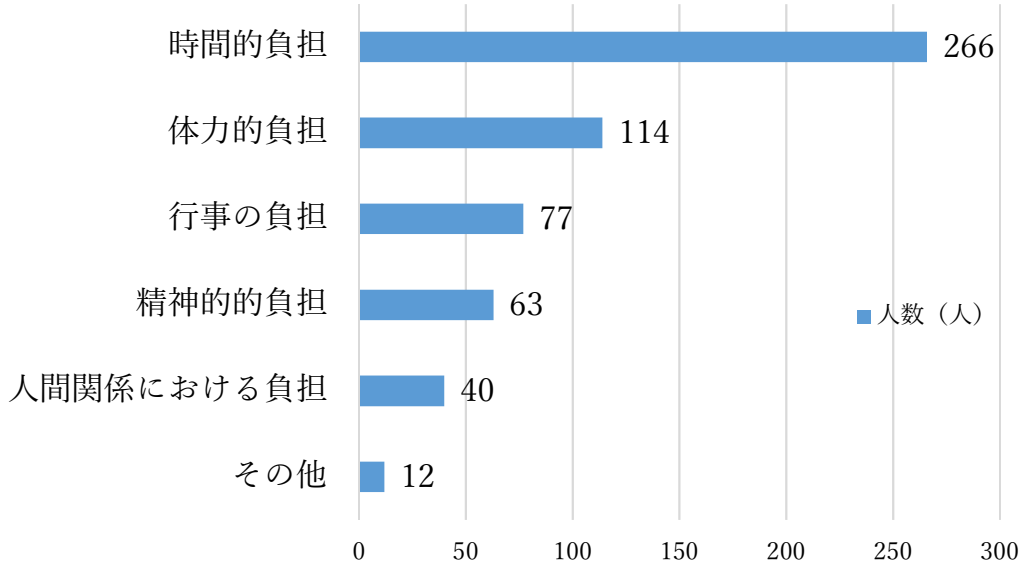
防火防災訓練指導

・新人なので覚えること及び難しいことが多数ある。

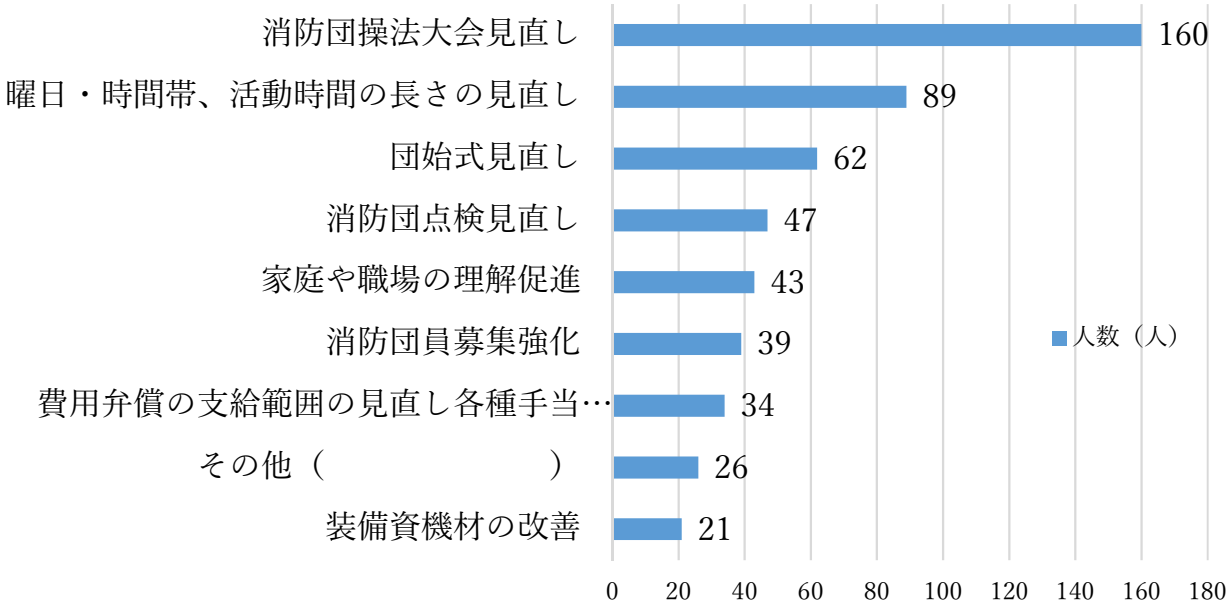
検討事項１

アンケート結果について【資料２から抜粋】

Ｑ１－４　負担の主な理由について選択してください。（複数選択可）



Ｑ１－５　負担についての改善策があれば記載してください。（複数選択可）



検討事項１

アンケート結果について【資料２から抜粋】

Ｑ１－６　　具体的改善策について

消防団操法大会見直し

・訓練日数、時間の削減

・操法大会における競技性の廃止（順位の廃止）。発表会形式とすることで、選手の固定がなくなり、多くの団員の技術力の向上に繋げる。また、他の分団と推奨検討事項について意見交換し、お互いに技術を高められるような形とする。

・毎年、操法大会を行うのではなく東京都大会に出場する順番の年に各消防団の操法大会を行う。

・操法大会をやめ実戦的な訓練を実施する。

・操法大会について実戦的な操法にする。防火服を身につけ、時間よりも安全を考慮した動きや、指揮系統や連携を考え行う。訓練実施後は講評を受け、結果をフィードバックしてゆく。各分団ごとでなく、複数分団が協力して行っても良い。

・操法大会に代わる新たなイベント（地域住民参加型）の開催。操法大会の見学に訪れる人の多くは消防団関係者であり大会が充足率の向上に寄与しているとは考え難い。地域住民参加型のイベント（放水・救護体験等）に置き換え参加を促すことで、消防団活動を知ってもらい充足率向上が期待できる。

・走らずに行う操法へ。誰でもいつでも出来る様な消火法。規律重視よりも実戦重視

・操法大会について、少人数の分団等は合同のチームで訓練を実施し参加することで、人数、訓練場所の改善を図る。また、各分団の連携の向上に繋げる。

・選手を分団ごとではなく、全分団から選出する。

・「魅せる」大会から「学べる」大会として、内容を「現場で役立つスキルと実戦化」へ変更。操法終了後に活動における詳細な評価を伝達し、知識技術の向上を図る。

・操法大会は希望する分団のみの参加とし、実戦的な訓練を実施したほうが良い。

・操法大会を毎年やらない。３年に１回にする。

・操法大会都大会の廃止

・形式より実務を重視した活動、訓練がやる気につながると思う。

曜日、時間帯、活動時間の長さの見直し

・主婦が活動できる時間での、行事訓練の実施

・各式典について時間短縮及び効率化を図る。

・行事におけるリハーサルをなくす。

・待ち時間ゼロ設計。常に誰かが動いている状態にする（見るだけの時間をなくす）。

・目的に明確化（何のためかわからないと長く感じる）早く終わる仕組を入れる（どうせ長い）がやる気を削る。指導側の意識改革→短時間で成果を出すのか指導力（長時間指導力不足）→長時間は注意力が下がる。

検討事項１

アンケート結果について【資料２から抜粋】

消防団始式見直し

・時間的短縮

・消防団始式の内容は表彰式である。団員の技術知識の向上には繋がらない。団員への負担、効果を考えると内容を見直す必要がある。

・表彰制度の見直し。

消防団点検見直し

・合同点検は前日及び当日も朝から準備を行うが点検として発表する団員はごく一部である。また、見学することも自由ではなく成長に繋がらない。多くの団員が参加及び活動ができ、知識技術の向上につながる点検とした方が良い。

・合同点検について、時間的・体力的負担が大きいため、見直す。

家庭や職場の理解促進

・家庭の事情（子育て等）で活動に参加するのが難しい団員への対策

・団員がサラリーマン化しており、会社での拘束時間がある為、参加が難しいことを考慮する。

・個々の生活基盤等を大事にしたうえで、可能な範囲で活動に参加するというスタンスを、分団内で理解をしてもらう。細く長く続けられるような活動

消防団員募集強化

・団員募集方法の改善により団員数を増やし、各種負担を分散させ個々の精神的・肉体的負担を減らす。

費用弁償の支給範囲の見直し各種手当の支給

・費用弁償の改善。費用弁償を回数から時間に応じた支給金額への変更

その他

・それぞれの体力に応じた訓練を計画する。

・消防団の存在意義を考慮した各種行事の見直しを図る。

・事務局の事務能力の向上

・活動、行事が多すぎるので削減。行事の参加・不参加の自由度を広げる。

・警戒における交通整理を担当しない。

装備資機材の改善

・個人装備品を削減する。被服の管理が大変であり、活動服と防火服のみなど簡素を行う。

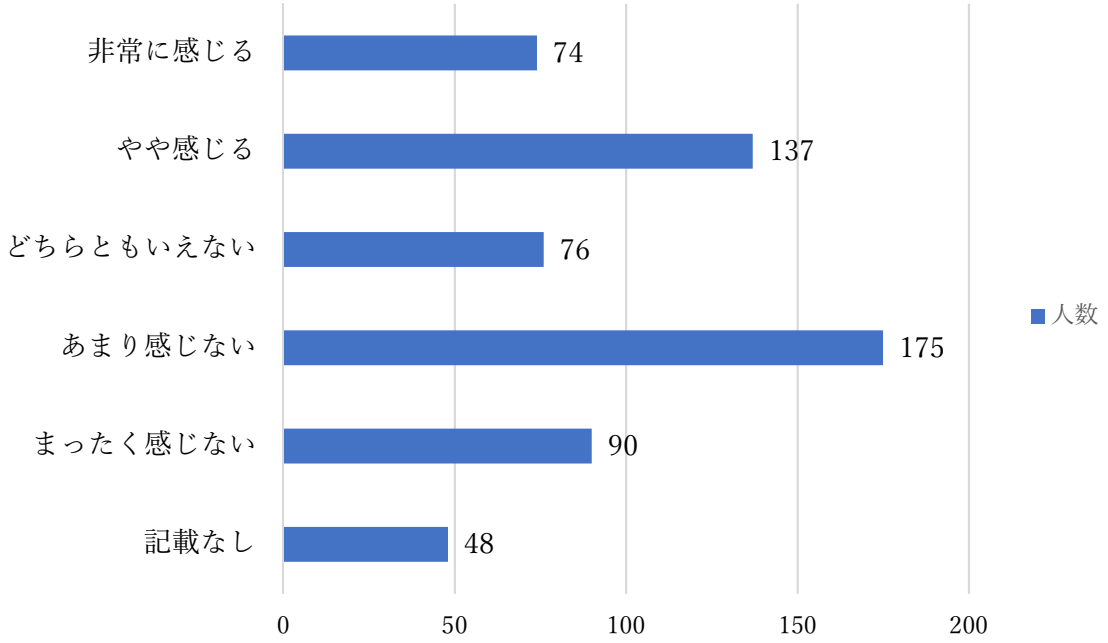
・活動服の冬服の廃止

・事務局への報告を含む消防団活動における事務処理について可能な限りデジタル化を図る。出場等通知表などの各種報告についての専用アプリの開発等

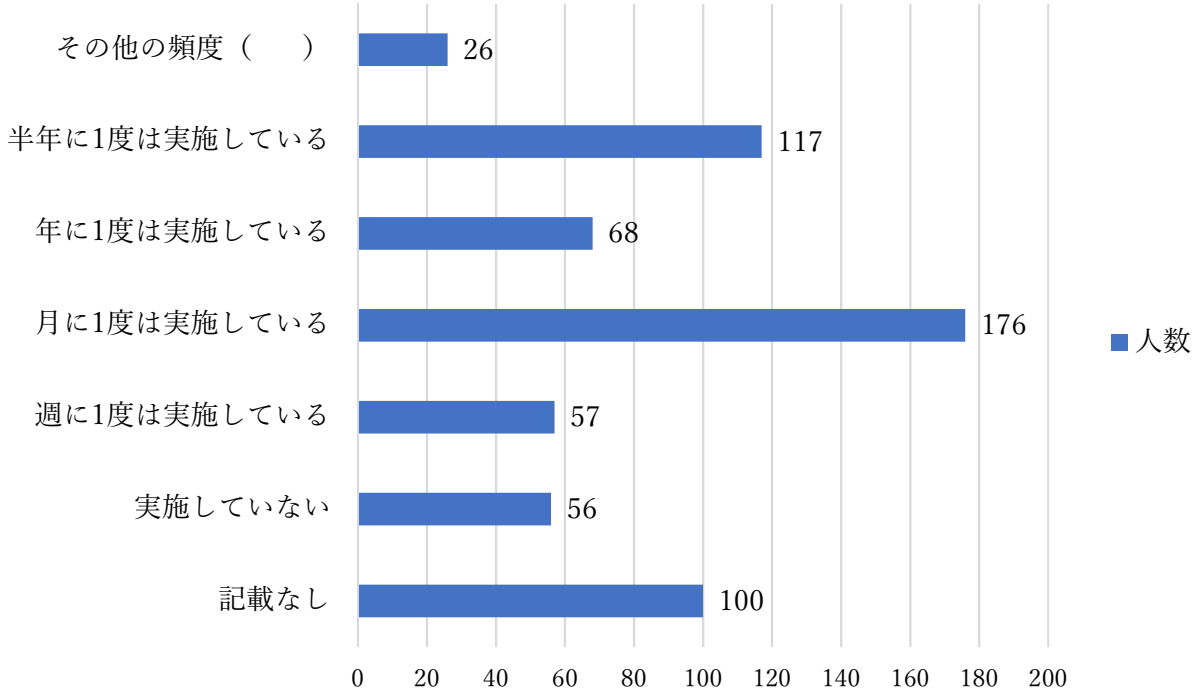
検討事項１

アンケート結果について【資料２から抜粋】

Ｑ１－７　実戦的な訓練が十分に実施されていると感じますか。



Ｑ１－８　実戦的な訓練の実施状況を回答してください。



検討事項１

アンケート結果について【資料２から抜粋】

Ｑ１－９　実戦的訓練を実施していない理由

・時間がない。
・消防団員の不足
・訓練指導者不足。署の立案で行う訓練は実戦的だが、団だけは場所、時間、人数に問題があってできない。
・ポンプ操法以外の訓練をほとんど行っていない。
・分団長の指揮、方針、考え方や取り組み姿勢により各分団によってかなりの差が有ると感じている。自分の所属分団は、訓練不足と感じる。
・訓練指導者不足。分団内で提案しても、実施できない。
・実戦の定義がされていないため。
・騒音問題やホース延長ができるような広い訓練場所がない。
・地域コミュニティ色が強く、実戦的訓練より行事が優先されることが多い。

Ｑ１－１０　Ｑ１－９で回答した理由の改善策があれば記載してください。

・訓練指導者の育成
・単独実施でなく複数分団合同で実施する。
・署隊と連携した訓練
・消防団のみでの消火栓の活用
・署員による訓練指導者の育成
・団員募集の強化
・分団ごとに、月ごとの訓練計画を作り、訓練内容の報告を義務化する。
・実戦の定義、想定がわかるような訓練の実施
・企業団員の役割における明確化、具体化
・訓練指導者養成研修等の実施
・行事、イベントの軽減

Ｑ１－１１　実戦的な訓練で実施したいことがあれば記載してください。

・火災対応訓練、ブラインドでの火災対応訓練、消火栓を活用した火災対応訓練
・水災時におけるボートを使った救助訓練、水防工法以外の訓練
・救助資機材取り扱い訓練
・・救助資機材を活用した実戦的な訓練
・定例訓練と称して月１度は、救命講習、救助資機材の取り扱いなど訓練実施しているが、自分たちだけで実施しているため、正解が分からない。
・指揮訓練、無線運用訓練、団本部運営訓練
・他分団との放水訓練
・資機材のメンテナンス教養
・各種訓練の反復
・震災時の訓練

検討事項１

検証結果について【資料３から抜粋】

訓練後の感想

・とても身になりました。今日の訓練では職員の展示と説明があり、とても分かりやすかったです。消防団員だけでやっていると、一連の活動が合っているのか合っていないのか分からないことがあったので、とても勉強になりました。

・今日の訓練はとてもためになりました。指揮者はやったことがありませんでしたが、評価表、行動概要に項目があったこと、展示及び説明、一回目、二回目と段階的な訓練で、知識技術の向上がありました。

　今後、分団でも各番手について指導できる体制ができればよりよくなるのかと思います。

・まだ身についていないので、今後も数回、似たような形で構わないので。訓練をやっていただきたいです。

　今日の訓練にすごく感動した部分があったので、ほかの隊員にも是非経験させてあげたいです。

・署員の展示での確認呼称に感銘を受けました。そこには安全確認の意味、隊員同士の情報共有など機能的なものなんだなと感じました。

　今日もとても楽しかったです勉強になりました。

・各分団の混成で隊を編成して訓練を行うことに、新たな気づきがありました。

各分団の課題（団員意見）

・一つの分団でこの訓練を実施できれば良いのですが、指導できる人材は分団にはいません。

　複数回このような訓練を行って記憶を定着させ、指導者を育成していくことがまずは一番大事だと感じました。

・分団では、今日のような訓練は単独ではできません。人数が足りないし、指導者もいません。まずは、本日のように職員の方が付いてやってくれた方が私は良いと思います。

・人数が少なく、指導者もいない。訓練時にも安全管理にまで人数を回せていない場面が多い。団単体では人数も指導者の面からも厳しい。

検討事項１

検証結果について【資料３から抜粋】

各分団の課題（団員意見）

・資機材については、各分団に揃っていますが、場所、時間、人数のことを考えると分団だけでこれを定期的にやっていくのは無理だと思います。

・分団は指導力のある団員がいないので、実戦的な訓練をやっても、何やっているのか分からない訓練になってしまう。

・分団に操法の指導員はかなりいます。実戦的な訓練を指導できる人は少ないので分団でやるのは難しいです。

・今日みたいな実際に現場で使える訓練を月に１回やったほうが現実的だと思います。

課題に対する解決案（団員意見）

・場所だけが毎年問題になっているので月１回でも消防署の裏庭を貸してもらえたら、全員にそういう訓練ができる。

　そのためにも署をお借りしたい。

・消防署と消防団が連携して訓練を実施することも非常に実践的だと思います。

・今日のような訓練をする際に１個分団だけでなくて複数分団で実施する。現在１年に１度、事務局のサポートで火災対応訓練を実施していますが、その後、１から２か月後くらいに、同じような訓練を２個分団以上で行う。１つの指揮系統で２個分団が動く形にして、分団同士の連携を高め、対応力を高めていく訓練を行う。

　記憶が残っているうちに訓練をやったほうがより、効果があると思います。

・普及員連絡会定例訓練（年に８回実施）のように、火災等の訓練についても、定期的に消防署に各分団から集まり、訓練・教養を実施するシステムがあると良いと思います。各分団の情報共有及び横の繋がりにもなると思います。

　誰が担当になるのかは各分団で決めてもらえればと良いと思います。

・課題は大きく分けて、①人がいない、②指導者がいない　この二つと思います。指導者は、訓練の定例会を行うことで育成できると思います。分団の現状等についても意見交換ができる。定例会では、効率的に訓練の的をしぼって月１回程度行う。定例訓練が月一回あればとても楽しみです。

検討事項１

答申に向けて[提言（案）及び対応方針（案）]

検討事項１

現消防団活動の負担の軽減を考慮し、首都直下地震を想定した実戦的かつ継続的な訓練を実施する。

検討の方向性

①　現在の消防団活動の負担を軽減するため、より効率的な活動とすることで、実戦的な訓練を充実させる。

②　現行の訓練内容や方法の再評価による効果的かつ効率的な訓練推進方策の提案

⑤　従来の枠組みにとらわれない柔軟な訓練、行事による負担軽減方策の検討

現在の消防団活動での負担は「消防団操法大会」、「合同点検」について多くの負担があげられたことから、項番①，②，⑤の検討の方向性について合わせて考慮する。

上記アンケート結果を考察すると現在の消防団員の職業形態は会社員が約半数を占めており、「時間的な負担」、「体力的な負担」が非常に多いことが確認できた。このことを踏まえ各行事についての見直しについての提言する。

消防団操法大会について

提言（案）

消防団操法大会については、その意義を維持しつつ、各消防団の実情に応じた選択性の高い柔軟な運用の推進を提言する。

また、従来の操法種目に加え、実際の火災現場を想定した、「実戦的な火災対応訓練」をあらたに創設し導入することを提言する。

消防団操法大会は、消防技術の向上、規律の保持、団員相互の連携強化などにおいて、一定の役割を果たしており、消防団活動における目標の一つとして位置づけられていると考えられる。

また、大会出場や訓練そのものを活動のモチベーションとし、技術向上に意欲的に取り組む団員も多く、消防団の活性化に一定の効果をもたらしていることも認められる。

一方でアンケートにおいて、回答者の約 40%が負担と感じており、その具体的内容として、「分団員の不足による選手の固定及びそれに伴う一部団員への負担の集中」、「競技性であるためプレッシャーによる出場の躊躇」、「訓練日数の増加」、「訓練回数及び日数が多い」、「実戦的な訓練ではない」等について複数の回答があった。

検討事項１

答申に向けて[提言（案）及び対応方針（案）]

アンケート結果からの負担の改善策としては、「団員数の少ない分団は合同で訓練に参加する」、「毎年実施するのではなく、隔年ごとや都大会参加の年に実施する」、「競技形式ではなく発表会形式とする」、「実戦的な訓練へ変更する」等の具体的改善策について複数の回答があった。

対応方針（案）

消防団操法大会の実施について、操法大会が有する技術向上や団員意欲向上の効果を維持しながら、各消防団の実情に応じた選択性の高い柔軟な運用を推進する。

・分団単位だけではなく、少人数の分団は合同で訓練を行うことを推進する。

・従来の操法種目に加え、実際の火災現場を想定した、「実戦的な火災対応訓練」をあらたに創設し、従来の操法と選択できるようにする。

・従来の操法と実戦的訓練を交互に実施する。

消防団点検について

提言（案）

消防団点検について、大田区においても、本年度は合同ではなく各消防団単位で実戦的な訓練を行う「あらたな消防団点検」が試行となったことから、今年度の実施結果を踏まえ、更なる検討を行うことを提言する。

これまで実施されてきた消防団合同点検は、大田区内の消防団が一堂に会し、消防団員の規律、部隊行動、各種災害における消防団活動を関係者等に確認してもらう側面もある。

一方でアンケート結果においては、「参加団員数及び来賓者も多数であることにより、消防団員は前日及び当日も早朝から準備を行うが、点検では大半の団員が行進のみで終了し、指定された数名のみで訓練成果を披露する活動に大きな意義を感じない」、また、「来賓の挨拶が長く、長時間立ったままの状態に強い負担を感じる」、「自由に見学することもできないため成長に繋がらない」との声があがっており、アンケート結果からの負担の改善策としては、「多くの団員が参加及び活動ができる知識技術の向上につながる点検とした方が良い」という回答があげられた。

検討事項１

答申に向けて[提言（案）及び対応方針（案）]

対応方針（案）

東京消防庁として消防団員の負担軽減と実戦的な訓練の推進による災害活動力の強化を図ることを目的として、「新たな消防団点検」の試行が行われている。各消防団単位で実戦的な訓練を実施し、各消防署長から点検を受けることで実効性の高い訓練の実現が可能となる。

一方で大田区の全ての消防団が集まり消防総監から点検を受けること、多くの来賓への訓練披露の機会及び団と団の連携がなくなるという課題もあることから、今年度の大田区の実施結果を踏まえ、更なる検討を行うこととする。

検討の方向性

③　実災害に即した署隊との多様な連携訓練の推進

⑥　各消防団の地域特性に応じた訓練内容、方策の検討

提言（案）

署隊との実災害に即した連携訓練及び地域特性に応じた訓練の推進に向け、災害に応じた実戦的訓練指導者の育成強化を図る。

首都直下地震等の大規模災害はもとより通常災害において、災害対応能力の強化を図るためには、消防団と署隊が連携し、実災害に即した実戦的な訓練及び地域特性に応じた訓練を継続するための仕組作りが重要である。

また、こうした実戦的な訓練を継続的かつ効果的に実施していくためには、消防団内部において企画・指導できる人材を育成し消防団が主体的に訓練を継続できる体制が必要不可欠である。

しかしながら、アンケート結果では実戦的な訓練を実施するうえで、分団内に訓練を指導できる人材が不足していることが課題として複数あげられた。

また、訓練検証結果においても消防団が主体的に実戦的な訓練を継続していくためには、訓練を指導できる人材の確保と育成が必要であるとの課題が共通して確認された。

対応方針（案）

１　実戦的訓練指導者育成制度の創設

・各分団の規模に応じた、「実戦的訓練指導者」の候補を選出する。

・消防署が指導的立場となり、年間事務事業計画として「訓練指導者育成プログラム」を策定し実施する。

・「実戦的訓練指導者」は各分団で分団員に対し訓練指導を行う。

検討事項１

答申に向けて[提言（案）及び対応方針（案）]

２　実戦的訓練メニューの整備

・消防団単独でも継続的に実戦的な訓練ができるように、統一された災害種別ごとの実災害に即した実戦的な訓練メニューを整備する。

３　消防署員による定期的な訓練指導体制の構築

・消防署員が定期的に分団本部や各署所裏庭で助言・技術支援を行う。

４　指導者育成後の消防団主体の実戦的な訓練への移行

・育成した指導者を中心に、消防団が主体となって実戦的な訓練を継続できる体制を構築する。

・地域特性及び消防団員の構成に応じた柔軟な訓練の実施（無線運用訓練、指揮板記入訓練、救出救助訓練）

・消防署は消防団の要請に応じて助言や技術支援ができる体制を整える。

５　段階的な消防署隊との連携訓練への発展

・消防団単独での実戦的な訓練が定着した後、消防署隊との連携訓練へ発展させる。

・火災現場を想定した、指揮命令系統を含めた連携訓練の実施

・実戦的訓練の評価として、火災対応総合訓練を実施し消防署員により成果を確認する。

検討の方向性

④　震災等における長期間の活動継続を視野に入れた訓練の検討と課題の抽出

提言（案）

震災時における長期間の災害活動継続に備え、交替要員を確保しながら継続的な消防団活動ができる体制を構築するため、より多くの消防団員が訓練参加できる環境づくりを推進する。

首都直下地震時等で長期間の活動を継続するためには、一部の団員のみが活動を担うのではなく、交替要員を確保しながら継続的に活動できる体制を構築しておくことが重要である。

また、長距離送水時には各分団相互の連携が必要となる。

対応方針（案）

現在実施されている総合震災消防訓練は、震災対応能力向上に向けた重要な訓練であるものの、実施が年に１度に限られていること及び消防職員が中心となって運営している。全団員が集まる「新たな消防団点検」においては消防団が主体となって実施できることから、震災を想定した実戦的な訓練を取り入れ、多くの団員が長距離送水訓練や救出救助訓練等の震災時に予想される災害対応訓練を実施することで、より具体的な訓練の検討と課題の抽出が可能となることが考えられる。

検討事項２

検討事項及びその方向性について

検討事項２

消防団自らが企画・実施する主体的な訓練の推進と充実について

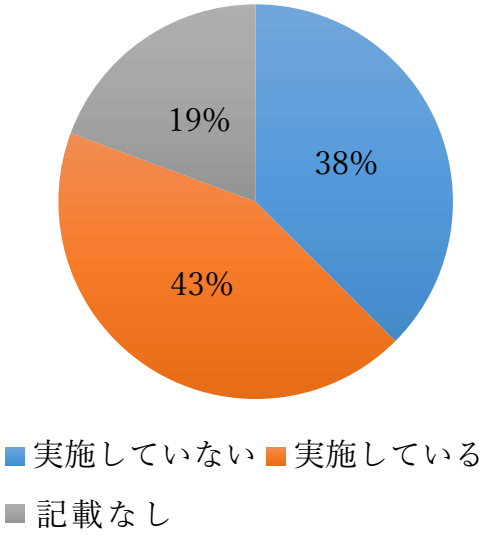
（案）検討の方向性

①　消防団自らが企画・実施する主体的な訓練
・災害種別ごとに、短時間でできる訓練実施要領及び訓練モデルをより分かりやすく具体的かつ段階的に記したマニュアルの整備
②　消防団自らが主体的に訓練ができる環境の構築
・消防署裏庭等だけでなく、安定的な訓練場所を確保することで、年間を通じた自主訓練を計画的に実施可能にする。
・会議室、トイレ等を備えた消防団の訓練場所の安定的な確保
・訓練時における騒音等を考慮した可搬ポンプの整備及び改良

アンケート結果について【資料２から抜粋】

Q２－１　消防団自らが企画・実施する訓練の実施状況を回答してください。

	人数（人）	割合（%）
実施していない	225	38
実施している	259	43
記載なし	116	19
合計	600	100



検討事項２

アンケート結果について【資料２から抜粋】

Ｑ２－２　実施している訓練内容を記載してください。

・毎月、救急技術委員会を開催し、応急手当指導員や普及員、将来的に取得したい団員の技術向上を図っている。
・月に１度、救急訓練を実施。４か月に１度火災対応訓練を実施
月に最低２回は火災、救助、救急、救命、規律の各種訓練を実施している。
・消防署での火災対応訓練
・無線運用訓練
・可搬ポンプ取扱い訓練
・水利調査
・資機材取扱い訓練等
・月に１度、分団本部でロープワークや AED 取り扱い、規律訓練などを行っている。
・各工具器等を使用し、使用方法及び器具の点検等の実施
・ポンプ、ストライカー、チェーンソー等の資機材の取り扱い訓練
・月に１度、規律訓練の実施
・月に１度、教育訓練を実施
・月に１度、基礎訓練実施
・月に１度、分団教育訓練で各種訓練
ポンプ操法等
・町会会館等を利用して初期消火、応急救護等
・定例訓練、市民消火隊との合同訓練
・月に１度、分団訓練を実施。訓練担当団員を中心に火災対応訓練、無線機の効果的な使用方法、東京消防庁公式アプリの有効など使用方法など様々な訓練を実施している。
・月に１度、分団訓練で火災・地震・救急活動の訓練を実施している。
・月に１度、分団訓練、更にグループごとに部会（計月２回）。実技訓練、座学、勉強会、ディスカッションによる火災対応、地震、救助、ロープワークなど
チェーンソー取り扱い訓練、水利確保要領、無線運用訓練、救急訓練
・月に１回、出張所にて応急救護訓練を実施
・週に１度、各種訓練を実施している。
・月に１度、署の防災教室で、救急勉強会として指導要綱の作成や実技訓練を実施している。また、不定期で規律訓練や結索訓練、資機材取り扱い訓練などを実施している。

検討事項２

アンケート結果について【資料２から抜粋】

Ｑ２－３　実施していない理由があれば記載してください。

・訓練場所がないこと。
・指導者が不足しているため。
・仕事が多忙なため。
・事務局が企画するのが通例となっているため。
・参加者が毎日同じ。年齢、体力にも問題あり。ポンプ水出しはきつい。
・実戦経験がないため。
・以前体験入団会の企画書を作成したが、実施場所がなく実施できなかった。
・昨年、新入団でスキル向上のための相談、依頼を行ったが実現への道のりは厳しくあきらめた。先輩団員それぞれの考えもあり難しい。分団一丸となって新入団員を育成する意識が低い。入団年数の浅い団員の意見は発信しづらいため。
・分団内で意欲がない、向上心のある団員が少ない。
・各団員の予定が合わないため。仕事が多忙なため。
・人員不足により人員が確保できない
・知識がない。
・町会等からの出場要請も多く、現状の活動で手一杯であるため
・分団内で訓練の要望をしても実施されない
・そのような企画がなく、話も上がってこない。
・団員の自主的な呼びかけでないため。
・定期的な点検、団本部からの企画が中心

Ｑ２－４　Ｑ２－３で回答した理由の改善策があれば記載してください。

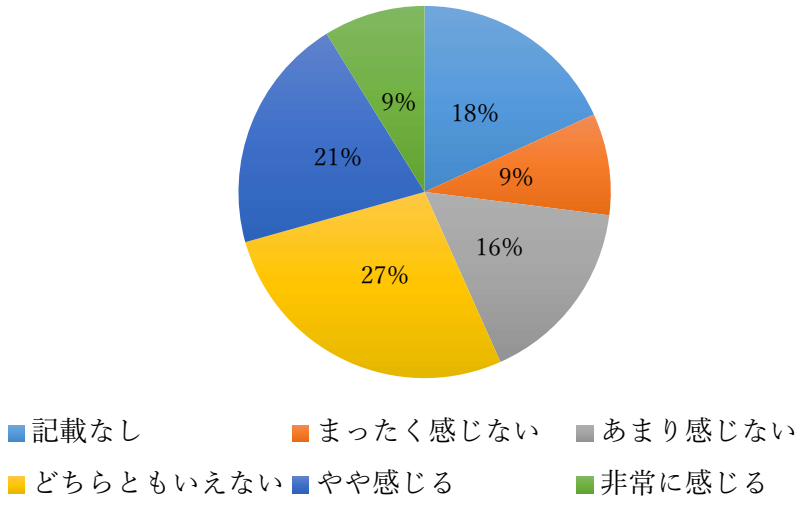
・各種災害に応じた訓練モデル等を作成してもらいたい。
・東京都管理の建物（学校等）を消防関係の訓練等で使用させてもらいたい時の許可取りがもっとスムーズになるよう連携して欲しい。（過去に半年必要と言われた。）
・訓練指導者の育成
・他分団の訓練見学や自己分団を超えた訓練の機会があれば良い。
・分団長に限らず、分団員が意見できるような会議体があると良い。
・訓練を行う前の事前講座が必要だと思う。理解して実施する訓練と理解しないで実施する訓練では効果が違う。
・分団内でノルマを作る。
・訓練モデルを参考にする勉強会を実施する。
・企業型消防団への具体的な役割の指示があると動きやすい
・ｅラーニングを活用する。
・年間訓練スケジュール（分団固有）の作成

検討事項２

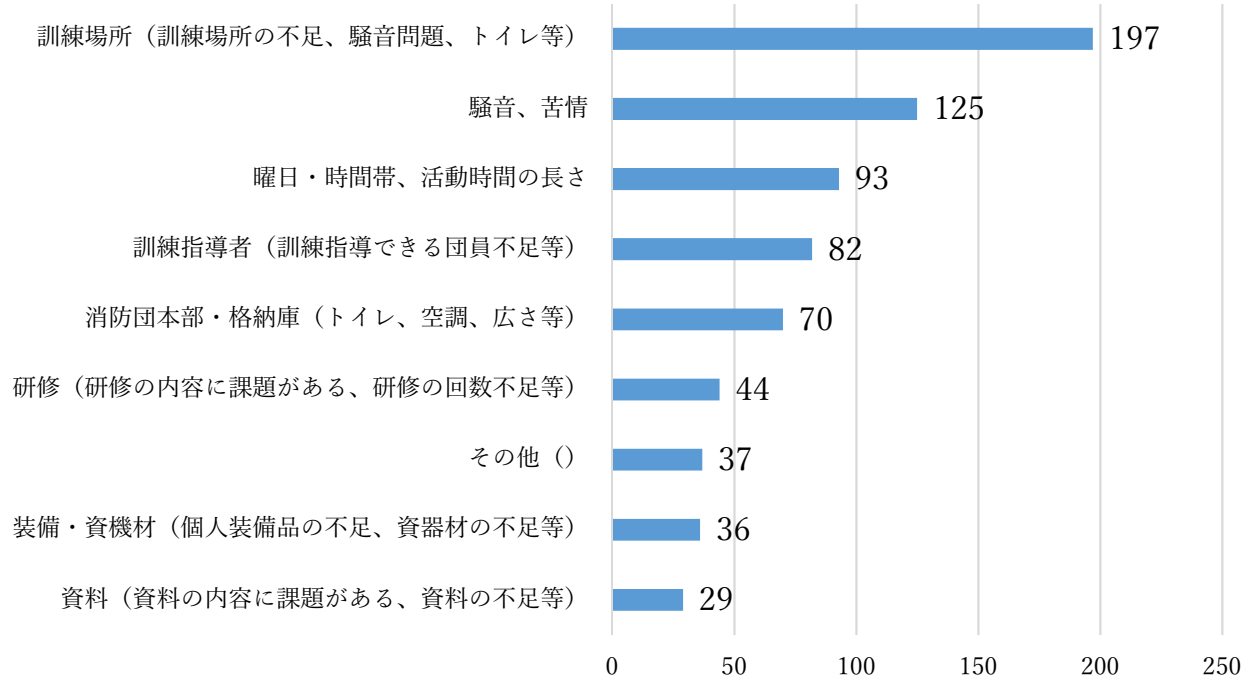
アンケート結果について【資料２から抜粋】

Ｑ２－５　各種訓練の実施にあたり環境が悪いと感じますか。

「環境」とは各種消防団活動の実施にあたり、「活動のし易さ、難しさ」を目安としてください。



Ｑ２－６　各種訓練の実施における環境が悪い理由を選択してください。（複数選択可）



検討事項２

アンケート結果について【資料２から抜粋】

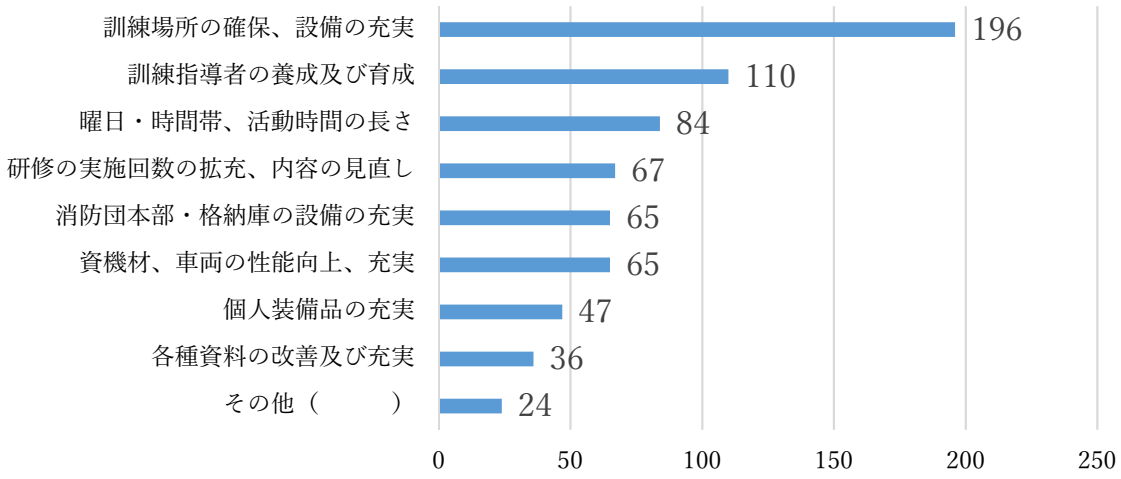
Q２－７　各種訓練の実施における環境が悪い理由を具体的に記載してください。

・訓練場所がない。訓練回数が多い。
・訓練場所が道路の為、交通整理の人員が多数必要。住民に迷惑がかかる。
・訓練における騒音の気づかい、苦情の対応、訓練の長さ
・操法大会の訓練場所にトイレがないので、訓練期間中だけでも仮設トイレを設置してほしい。
・簡単に訓練場所を借りられる場所がない。操法大会の訓練に時間を取られすぎている。
・操法大会の訓練においてホースを延長できる長さが足りず不十分
・指導者の指導が経験によるものが大きく、倫理的でないため伝わりにくい。
・共通の資料を基に行っていない。分団毎に解釈が異なっていたりもする。
・公道でやっているので、車やオートバイ、自転車、歩行者などがでてきて訓練が難しい時もある。
・分団本部の敷地内ではホースの展張もままならず、本部前路上での訓練は通行量が多く集中できない。
・路上は生活のために使っている方が多く、訓練に使うべきではないと思う。
・操法大会の基準が、全国、都、各地区でバラバラ。まとめて欲しい。
・操法大会の訓練で、近隣住民からの苦情で訓練場所がなくなり、ほかの分団と合同で訓練をしている。
・操法大会訓練の活動が人員不足で夜の訓練回数が多く、有休などを使い参加している。準備も含め毎回同じメンバーで負担が大きい。
・操法大会の資料が古い。実施している内容と変更があったり、足りない部分がある。
・操法大会で活用している水槽から消火栓までの距離が遠いうえ、車道や歩道をまたいでいるため、充水が大変
・昼間の公園での訓練で警備のため選手以外は、訓練をじっくり見れず学習できない。
・分団本部が狭いため、全団員が集合した場合は外に待機しなくてはならない。
・訓練場所が遠く、車やバイクがないと移動が難しい。
・訓練実施前の地域住民への周知に SNS や地域アプリなどを使用するのが良いと思います。住民に「協力してもらっている空気」を作る。迷惑をかけられてると感じさせない工夫が必要。
・操法訓練場所が傾斜地である。
・研修機会がもう少し欲しい。
・ｅラーニングではいまいち記憶に残らない。

検討事項２

アンケート結果について【資料２から抜粋】

Ｑ２－８　各種訓練の実施における活動環境を良くするための改善策を選択してください。（複数選択可）



Ｑ２－９　Ｑ２－８で回答した改善策を具体的に記載してください。

・可搬ポンプのエンジンの消音化
・自由に使用できる訓練場所、公道以外の訓練場所、消防団専用の訓練場所の設置。
・東京都管理の建物の利用申請を簡素化
・消防学校だけでなく各署でも、研修教養等を実施してほしい。
・指導者養成のプログラム確立
・夜間に訓練をしているので照明の設備（負担の軽減の為、容易に設置できるもの）を充実
・操法大会で年度ごとに変更があった部分の周知方法の改善（視覚化…タブレットで確認できるなど）
・応急救護訓練の際の訓練用の訓練人形と訓練 AED を分団ごとに２つ配布
・消防署敷地内で訓練を実施
・広報等で看板、宣伝文句が古いため、改善する。
・団員募集強化による団員数の確保
・軽車両では資機材が多く積めないため、改善してほしい。
・費用弁償の一律支払の見直し、夜警等は下げて火災等の出勤を高くする。
・行事を準備する職員が内容をしっかりと理解把握し、対応してほしい。
・資機材置き場の整理
・継続的な訓練の実施
・分団本部が狭く全員集合した場合、入りきらないため改善してほしい。
・分団単位では指導者の能力（専門性）の限度がある。署、本団で指導体制を構築すべき。

検討事項２

答申に向けて[提言（案）及び対応方針（案）]

検討事項2
消防団自らが企画･実施する主体的な訓練の推進と充実について

検討の方向性
①　消防団自らが企画・実施する主体的な訓練

提言（案）
消防団が限られた時間の中で主体的に訓練を企画･実施できる体制を構築するために、災害種別ごとの具体的な「訓練マニュアル」を整備するとともに、各消防署において統一的に消防団訓練指導者を育成できるよう、体系的な「訓練指導育成制度」を構築する。

首都直下地震等の大規模災害において、消防団には地域防災の中核として更なる災害対応能力の向上が求められており、そのためには継続的な訓練を実施するための仕組作りが必要不可欠である。

一方で消防団員の就業形態は、アンケート結果にもあるとおり会社員が約 44％を占める中、十分な訓練時間を確保することが難しくなっている。

また、実戦的な訓練指導者が不足していることも課題のひとつとして挙げられている。

このため、限られた時間の中で効果的な訓練を継続的に実施するためには、消防団自らが訓練を企画し、団員の実情に応じて、曜日、時間等も含め柔軟に実施できる訓練体制を構築することが必要不可欠である。

対応方針（案）

１「訓練マニュアル」の構築

・効率的かつ実効性が高く、災害種別ごとの段階的な「訓練マニュアル」を構築することで、各分団の構成や要望に応じて柔軟な訓練実施時間や曜日を踏まえた訓練体制を構築する。

２「訓練実施動画」の作成

・訓練の標準化と効率化を図るため、「訓練実施動画」を作成する。動画は「展示」「説明」「訓練実施」で構成された一連の流れを収録し、事前学習や訓練後の振り返りに活用できる教材として整備する。これにより、指導者による教え方のばらつきを軽減するとともに、短時間で効果的な訓練を実施できる環境を整備する。

３　「訓練指導者育成制度」の構築

・消防署ごとに訓練指導者育成内容に差が生じないように、統一した「訓練指導者育成制度」を構築し、各消防署が同一基準で育成できる仕組とする。

検討事項２

答申に向けて[提言（案）及び対応方針（案）]

検討の方向性

②　消防団自らが主体的に訓練ができる環境の構築

提言（案）

消防団が継続的かつ効果的に訓練を実施できるよう、訓練場所の確保及び訓練環境の整備を推進する。

消防団の災害対応能力を向上させるためには、継続的に訓練を実施し知識技術の習得が重要である。

一方でアンケート結果においては、訓練場所の不足、騒音に対する苦情、トイレがないことなど多数の意見が挙がった。

このことから、継続的かつ実戦的な訓練を実施するためには、訓練内容の充実だけでなく、消防団が安定して訓練できる環境整備を推進する必要がある。

対応方針（案）

１　消防団専用訓練場所の確保

・地域ごとに継続的に訓練可能な消防団専用の訓練場所を確保

２　訓練環境の整備

・トイレ設備がある訓練場所の整備

・トイレ設備がない場合の簡易トイレの整備

・夜間訓練に対応した照明環境の整備

３　周辺環境に配慮した資機材の整備

・消音効果の高い可搬ポンプの導入